

心の健康センター所報

令和元年度

富山県心の健康センター

はじめに

今この原稿を令和3年1月に書いております。1月7日に新型コロナウイルス対策で2回目の緊急事態宣言が出されました。皆様方は業務、生活全般に渡り感染拡大させないようにご苦労されていることと推量します。心の健康センターでは、つらさ、不安等に耳を傾け、寄り添い孤立感の軽減に努めていきます。

H31年度の富山県心の健康センターの事業の概要を報告させていただきます。皆様からの忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

H30年5月に依存症相談支援センターを開設し、来所者には回復プログラムを用いて回復支援をおこなっています。またセンターの支援の力量を上げることも大きな目標です。ギャンブル等をやめたいと思うが止めることができない人が、積極的に当センターを利用していただけたらと考えています。ご家族だけの相談も積極的におこなってきました。

富山県内には、ひきこもりの人が約9千人と推定されています。ひきこもり地域支援センターでは、ご家族、ご本人の相談を継続的に行ってきました。多くの人達を支援するには、各機関との協力が必要と考えています。

発達障害の特性のために生活に支障が出ている方への支援も重要であります。センターでは発達障害の特性の有無を検討しながら相談を行ってきました。

アウトリーチ事業では、多職種、複数の機関が連携した支援を経験しました。アウトリーチは、ひとつの支援の在り方と思われました。

精神医療審査会では多くの委員にご尽力いただき、H31年度は約3,200件の審査件数でした。ありがとうございます。

自立支援医療費の支給認定数と有資格者数は少しずつ増加し、H31年度の有資格者数は約1万2千人でした。精神障害者保健福祉手帳の有資格者も少しずつ増加し、H31年度は約7,300人でした。委員の先生方にはご尽力いただきました。ありがとうございます。

今後とも多くの方々と協力し、精神保健福祉に尽力していきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

令和3年1月

富山県心の健康センター所長
麻生光男

目 次

は じ め に

第Ⅰ編 運営の概要

1 沿 革-----	1
2 設置目的と業務-----	2
(1) 設置目的	
(2) 業務	
3 職員と業務組織-----	3
(1) 職種別職員構成	
(2) 業務組織	
4 施設概要-----	4
(1) 所在地と交通	

第Ⅱ編 事業の概要

1 技術指導・技術援助と企画立案-----	5
(1) 保健所への技術指導・援助	
(2) その他の機関への技術指導・援助	
2 教育研修-----	7
(1) 精神保健福祉全般	
(2) 自殺予防対策	
(3) 依存症対策	
(4) ひきこもり対策	
(5) リハビリテーション	
(6) 児童思春期	
3 普及啓発-----	12
(1) 広報紙「こころの健康だより」の発行・配布	
(2) ホームページの運営	
(3) ビデオテープ・図書等の貸出	
(4) 見学研修	
(5) 講演会への講師派遣	
(6) マスメディアの活用・協力	
4 精神保健福祉相談・診療-----	14
(1) 来所相談	
(2) 思春期・青年期グループ相談事業	
(3) 電話相談	
(4) 診療	
(5) こころのリスク相談事業	

5	組織育成-----	20
	(1) 公益社団法人 富山県精神保健福祉協会	
	(2) 社会福祉法人 富山県精神保健福祉協会	
	(3) 特定非営利活動法人 富山県精神保健福祉家族連合会	
	(4) 富山県精神障害者支援事業所等連絡会	
	(5) 特定非営利活動法人 富山県断酒連合会	
	(6) 富山県精神科医会・富山県精神科病院協会	
6	精神医療審査会の審査に関する事務-----	21
7	自立支援医療費（精神通院医療）の支給認定及び精神障害者保健福祉手帳の交付決定等 に関する事務-----	22
	(1) 自立支援医療費（精神通院医療）支給認定等の事務について	
	(2) 精神障害者保健福祉手帳交付決定等の事務について	
8	自殺予防対策-----	24
	(1) 普及啓発活動	
	(2) 技術指導・技術援助、企画立案など	
	(3) 研修会	
	(4) グリーフケア相談	
	(5) 職域対策：心の健康に関する出前講座	
9	依存症対策-----	26
	(1) アルコール依存症対策	
	(2) 薬物依存症対策	
	(3) ギャンブル依存症対策	
10	ひきこもり地域支援センター-----	29
11	依存症相談支援センター-----	31
12	自殺対策推進センター-----	32

第Ⅰ編 運営の概要

- 1 沿革
- 2 設置目的と業務
- 3 職員と業務組織
- 4 施設概要

1 沿革

昭和 27 年 2 月 1 日	富山市大手町 1-2 に『富山県精神衛生相談所』開設（富山保健所に併設）
昭和 35 年 4 月 1 日	富山市新総曲輪 1-7 富山県医務課内に事務所移転。専任職員 1 名配置
昭和 36 年 4 月 1 日	富山市大手町 1-2 富山保健所内に事務所移転。専任所長配置
昭和 40 年 10 月 1 日	精神衛生法改正に伴い、『富山県精神衛生センター』に改称
昭和 41 年 8 月	富山保健所との合同庁舎新築のため富山市舟橋南町 名古屋通産局富山支店に事務所移転
昭和 42 年 11 月 30 日	富山保健所との合同庁舎竣工。富山市大手町 1-2 に事務所移転
昭和 58 年 4 月 1 日	富山県衛生研究所移転に伴い、大手町 1-15 富山県精神衛生センター、富山県精神薄弱者更生相談所合同庁舎に事務所移転
平成元年 4 月 1 日	精神衛生法等の一部を改正する法律による改正後の精神保健法の施行（昭和 63. 7. 1）に伴い、『富山県精神保健センター』に改称
平成 7 年 7 月 1 日	精神保健法の改正に伴い、『富山県精神保健福祉センター』に改称
平成 9 年 4 月 1 日	富山市蜷川 459-1 に新築移転に伴い、『富山県心の健康センター』に改称、診療所を開設
平成 24 年 5 月 22 日	ひきこもりに関する総合的な窓口として、「富山県ひきこもり地域支援センター」を開設
平成 30 年 5 月 28 日	「富山県依存症相談支援センター」及び「富山県自殺対策推進センター」を開設

2 設置目的と業務

(1) 設置目的

富山県心の健康センターは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」第6条第1項に規定する精神保健福祉センターとして、「富山県心の健康センター条例」に基づき、次のことを目的として設置されている。

- ア 県民の精神的健康の保持増進
- イ 精神障害の予防
- ウ 適切な精神医療の推進
- エ 精神障害者の社会復帰の促進
- オ 精神障害者の自立と社会経済活動への参加の促進

(2) 業 務

上記の目的を達成するために「精神保健福祉センター運営要領」等に基づいて、次の業務を行っている。

- ア 地域精神保健福祉を推進するため、精神保健福祉主管部局及び関係諸機関への精神保健福祉に関する施策等に対する意見具申
- イ 保健所、市町村及び関係諸機関への技術指導及び技術援助
- ウ 精神保健及び精神障害者福祉業務に従事する職員等の技術向上のための教育研修
- エ 県民に対する精神保健福祉の知識と精神障害についての正しい理解等の普及啓発
- オ 地域精神保健福祉活動の推進と精神障害者の社会復帰の促進及び自立と社会経済活動参加の促進等についての調査研究
- カ 心の健康相談から、精神医療に係る相談、社会復帰相談をはじめ、アルコール、薬物、思春期、認知症等の相談を含め、精神保健福祉全般に関する相談及び指導のうち、複雑または困難なもの及び専用電話による「こころの電話」相談
- キ 家族会、患者会、社会復帰事業団体などの県単位の組織の育成及び地域組織への協力
- ク 診療所としての診療
- ケ 精神医療審査会の開催・審査事務、退院請求・処遇改善等の受付事務
- コ 自立支援医療（精神通院医療）及び精神障害者保健福祉手帳の判定
- サ グリーフケア相談、職域に対する心の健康出前講座等の自殺予防対策事業
- シ ひきこもりに関する総合的な窓口である「ひきこもり地域支援センター」を設置し運営
- ス 地域の状況に応じて総合的かつ効率的に、依存症対策及び自殺対策を推進することを目的に「依存症相談支援センター」「自殺対策推進センター」を設置し運営

3 職員と業務組織

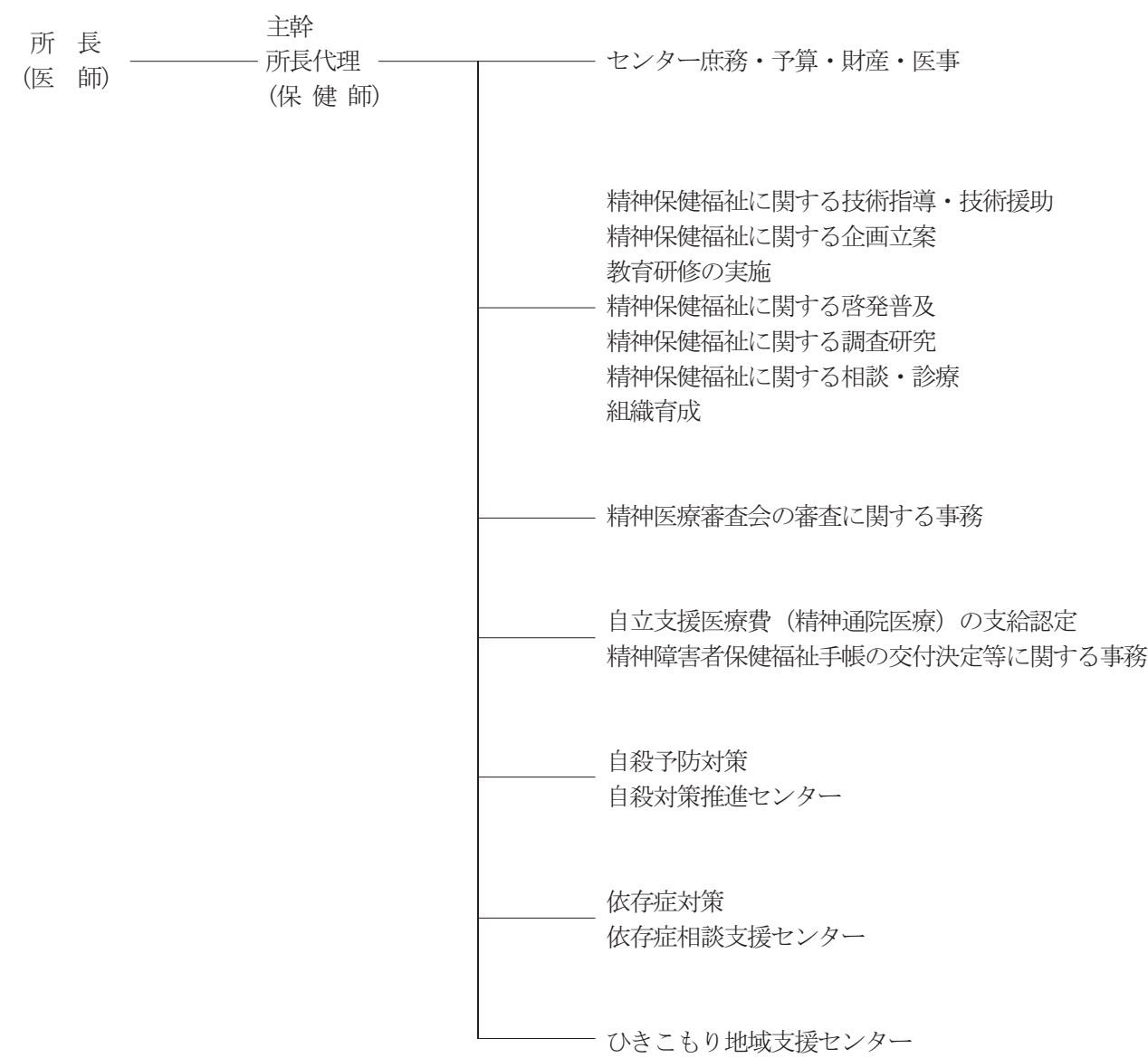
(1) 職種別職員構成

令和2年4月1日現在

職種 勤務形態	医 師	保健師	福祉職	事務職	操車担当	計	
職員	1	3	3	2		9	9
	所長 1	主幹 (所長代理) 1 上席専門員 1 保健師 1	主任 3	副主幹 1 主事 1			
臨任		1				1	11
会計年度 任用職員		1	4		1	6	
嘱託	4					4	
計	5	5	7	2	1	20	

(2) 業務組織

令和2年4月1日現在



4 施設概要

(1) 所在地と交通

施設は富山市街の南郊に位置し、富山市保健所、富山市南保健福祉センターとの合同庁舎の中に設置されている。

〒939-8222 富山市蜷川 459-1

電話 076-428-1511

ファクス 076-428-1510

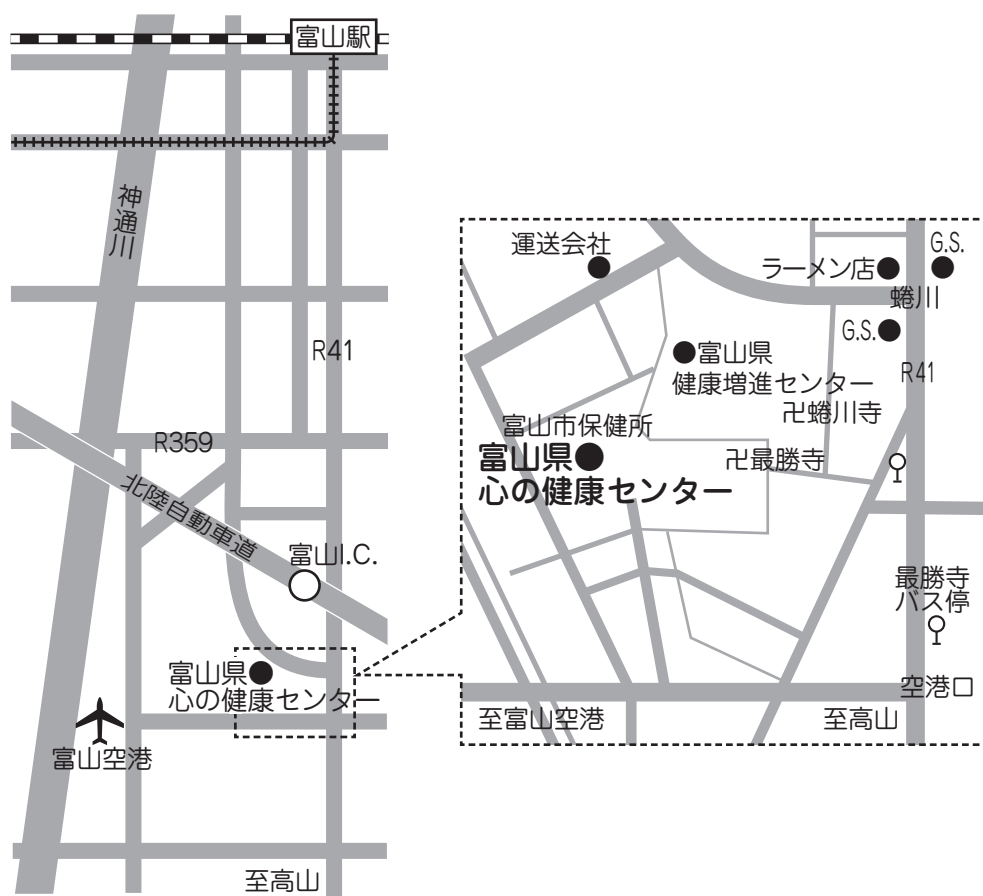
相談専用電話「こころの電話」076-428-0606

ひきこもり地域支援センター 076-428-0616

依存症相談支援センター 076-461-3957

URL http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1281/index.html

《所在地周辺見取り図》



第Ⅱ編 事業の概要

- 1 技術指導・技術援助と企画立案
- 2 教育研修
- 3 普及啓発
- 4 精神保健福祉相談・診療
- 5 組織育成
- 6 精神医療審査会の審査に関する事務
- 7 自立支援医療費（精神通院医療）の支給認定及び精神障害者保健福祉手帳の交付決定等に関する事務
- 8 自殺予防対策
- 9 依存症対策
- 10 ひきこもり地域支援センター
- 11 依存症相談支援センター
- 12 自殺対策推進センター

1 技術指導・技術援助と企画立案

地域精神保健福祉活動を推進するため、精神保健福祉に関する総合的技術センターとして精神保健福祉活動の第一線機関である保健所（厚生センター・富山市保健所を含む、以下、保健所と記す。）ならびに市町村をはじめ関係機関に対して、積極的な技術指導及び技術援助の協力を行っている。また、県の関係部局等の精神保健福祉施策に関する提案や意見具申を行っている（表Ⅱ－１－１）。

〔技術指導・技術援助の実施状況〕

実施件数は222件で、関係機関区分では、保健機関への技術指導及び援助が最も多く75件（33.8％）で、次いで行政、各種精神保健福祉団体となっている。

表Ⅱ－１－１

関係機関区分		実施件数	技術指導援助内容（延件数）					
			企画立案	事例検討	教育研修	普及啓発	連絡会議	その他
行政		62	10	15	4	9	24	11
保健	保健所	64	1	48	5	3	4	9
	市町村	11	3	3	1	3	1	5
医療		10	0	6	1	1	0	2
福祉		7	3	1	1	0	1	3
教育		9	1	3	4	1	2	1
労働		7	0	3	2	0	1	1
司法		17	3	10	0	1	2	3
学生教育・実習		4	0	0	4	0	0	0
各種精神保健福祉団体		25	3	2	1	6	7	8
その他		6	0	2	0	2	0	3
計		222	24	93	24	26	42	46

（１）保健所への技術指導・援助

県内の4厚生センター4支所と富山市保健所（中核市）に実施している。

〔保健所に対する援助の実施状況〕

事例検討、企画立案や普及啓発、教育研修等に協力している。

年度当初に「厚生センター（支所）精神保健福祉担当者等業務連絡会議」において、保健所及び心の健康センター並びに県主管課の精神保健福祉関係事業の実施計画や予算等について情報共有を図り、精神保健福祉関係事業の実施状況や課題等の情報交換や協議を行っている。

(2) その他の機関への技術指導・援助

[行政機関]

県健康課等の精神保健福祉関連事業の運営や推進等を含めた企画立案に対する提案や意見具申等をはじめ、各種協議会の委員として参画した。

また、精神科救急の運営に関する検討会や健康危機管理対策調整会議にも出席した。

厚生センターや富山市保健所については、職員を派遣し、事例検討を主とした精神コンサルテーションや、ケース検討を実施した。また、地域関係機関の協力のもと、精神障害者アウトリーチ事業を行った。

[福祉関係]

事例のケース検討等に協力した。

[労働関係]

事業所職員の教育研修や事例のコンサルテーション等に協力した。

[司法関係]

医療観察制度関連職種研修会の企画、開催や医療観察法ケア会議への出席等に協力した。

[学生教育]

学生への講義を実施した。

[各種団体]

家族会、ボランティア団体等が実施する研修等に協力した。

[労働]

「出前県庁しごと談義」として、希望があった事業所で講義を実施した。

なお、教育研修のうち、講師派遣については、表Ⅱ－１－２のとおりである。

表Ⅱ－１－２ 講演会・研修会への講師派遣

機関	テーマ	回数	対象者	延人数	派遣職員
行政	職場のメンタルヘルス	2	県新任所属長、新任職員	230	医師
厚生 センター	ひきこもり人への関わり	1	精神保健福祉推進協議会会員	82	相談員
	薬物乱用防止	1	薬物乱用防止指導員	30	相談員
	統合失調症の理解	1	精神保健福祉関係機関実務者	15	医師
	精神保健活動論	4	総合衛生学院保健学科	68	医師
学生教育	メンタルヘルス	3	県消防学校（初任科、中級幹部学生）	57	医師
	メンタルヘルス	1	北陸ビジネス福祉専門学校	15	医師・相談員
	メンタルヘルス	1	富山地方気象台	15	医師
労働	メンタルヘルス	1	人権擁護委員	33	医師
	自殺予防	2	ゲートキーパーネットとやま会員	60	医師
各種団体	ひきこもり ～関わりあうすべての当事 者のみなさんへ～	1	こころのサポーター養成講座受講者	29	相談員
	メンタルヘルス	1	立山町ヘルスボランティア協議会会員	29	医師・相談員
	ひきこもりの現状と課題、 行政の取り組み	1	富山地方自治研究センター	15	医師・相談員

2 教育研修

精神保健福祉関係機関等の職員を対象として、精神保健福祉に関する知識・技術の向上を図るため様々な研修をおこなっている。

区 分	研 修 会 名
(1) 精神保健福祉全般	①精神保健福祉新任者研修会
	②メンタルヘルス講座
(2) 自殺予防対策	自殺予防対策専門研修会
(3) 依存症対策	①アルコール関連問題研修会
	②依存症相談対応者研修会
(4) ひきこもり対策	①ひきこもり研修会・子どもの心の健康セミナー
	②ひきこもりサポーター養成研修会
(5) リハビリテーション	精神科リハビリテーション研修会
(6) 児童思春期	児童思春期精神保健専門研修会

(1) 精神保健福祉全般

① 精神保健福祉新任者研修会

精神科医療機関、厚生センター・保健所、市町村、相談支援事業所や障害福祉サービス事業所等の精神保健福祉関係機関の業務に従事して概ね5年未満の職員を対象に、精神保健福祉に関する基礎的な知識の習得を図るとともに、関係機関との連携を深め、精神障害者の社会復帰の促進に資することを目的として開催した。

	月日	場 所	内 容	参加者
1	7月9日	心の健康センター 2階会議室	講義「富山県内における精神保健福祉の動向」 講師 県健康課 精神保健福祉係長 霜島 裕一郎 講義「精神疾患と精神障害の基礎知識Ⅰ ～統合失調症患者の支援～」 講師 心の健康センター所長 麻生 光男 事業紹介「心の健康センターの業務について」 講師 心の健康センター 主任 荒幡ことみ 講義「地域における精神障害者支援のあり方」 講師 脳と心の総合健康センター長 宮部 真弥子 講義・演習「精神保健福祉相談の受け方」 講師 臨床心理士 高野 利明	43名 内訳 医療機関 11、 福祉事務所 8、 市町村 11、 保健所 1、 厚生センター 10、 児童相談所 2
2	7月11日	心の健康センター 2階会議室	講義「精神疾患と精神障害の基礎知識Ⅱ～気分障害について～」 講義「精神疾患と精神障害の基礎知識Ⅲ～発達障害特性と支援～」 講師 心の健康センター所長 麻生 光男 講義「精神障害におけるピア活動 ～ピア・フレンズ養成/派遣事業～」 講師 小矢部大家病院地域連携部長 小原 智恵 体験発表「当事者からの声～わたしの体験談～」 発表者 ピア・フレンズ 事例検討 グループワーク	47名 内訳 医療機関 11、 福祉事務所 10、 市町村 11、 保健所 1、 厚生センター 13、 児童相談所 1

② メンタルヘルス講座

私たちは、さまざまな集団の中でたくさんの人と関わりあいながら生活をし、大きなストレス状況に置かれている。そういった状況の中、職場において、様々なメンタル不調をきたす若者も多くいる。健康に働き続けるためには、職場が働きやすい環境であることが重要である。

そこで今回、事例を通して職員の健康管理担当者及びメンタルヘルス相談担当者がメンタル不調をきたしている若者への気づきと、対応についての知識を習得し、職場全体で働きやすい環境づくりを行えること及び、地域での精神保健福祉相談担当者が地域での相談対応に知識を活用できることを目的に開催した。

月日	場 所	内 容	参加者
11月1日	富山県市町村会館 ホール	講演「今時の若者を理解する」 ～職場のメンタルヘルスと支援策～ 講師 ゲートウェイコンサルティング株式会社 精神科専門医・日本医師会認定産業医 博士(医学)・MBA 梅田 忠敬	69名 内訳 行政14、医療機関9、教育関係21、保育所等5、企業6、支援機関民間団体14

(2) 自殺予防対策

自殺予防対策専門研修会

自殺対策関係者が、生きづらさを持つ者との間に安心できる関係性を築き、生きる力を見い出す支援が提供できる実践スキルを学ぶことで相談対応力の向上を図ることを目的として開催した。

月日	場 所	内 容	参加者
11月28日	富山県民小劇場 オルビス	講演「死を考えるほど追い詰められた方に 寄り添うということ」 講師 東京学芸大学 教育心理学講座 准教授 福井里江 情報交換 ①情報提供「富山県における自殺対策の概要」 ②事業紹介「富山市の自殺対策事業」 ③情報交換・意見交換	142名 内訳 行政39、医療機関11、警察・ 消防6、教育機関40、相談機 関・団体31、メンタルヘルス サポーター11、その他4

(3) 依存症対策

① アルコール関連問題研修会

依存症は、治療の難しい病気である。しかし、適切な治療と周囲からの働きかけで、回復が可能である。

そこで、今年度はアルコールや薬物の依存の問題に悩む本人や家族、職域および保健・医療・福祉等の関係者を対象として、疾患に関する正しい知識の習得と、相談対応者の相談対応技術の向上を図ることを目的として開催した。

月日	場 所	内 容	参加者
11月14日	富山県 総合情報センター	講義 「ポップなアルコール依存症講座」 講師 近畿大学芸術学部 教授 前田 益尚 講義 「笑顔をとり戻す家族支援～HARPの活動から～」 講師 松原病院 看護師長 川口 和枝	68名 内訳 行政28、医療機関12、 福祉関係6、自助グループ9、 その他13

② 依存症相談対応者研修会

地域の支援者がギャンブル依存症や薬物依存症に関する知識の習得と理解を深め、適切な相談対応ができることを目的として開催した。

[薬物依存症]

月日	場 所	内 容	参加者
7月25日	富山県 心の健康 センター	(講義+質疑+座談会) ①「薬物依存症とは」 講師 アイ・クリニック 院長 吉本 博昭	実 11名 延 31名
9月19日		②「薬物依存症と家族」 講師 谷野呉山病院 精神保健福祉士 中島 健一	
11月21日		③体験談 家族からのメッセージ 「薬物依存症の息子を抱えて」 講師 新潟家族会 小西 憲	
1月6日		「家族会の活動の紹介」 講師 金沢家族会 グッド ④「依存症からの回復」 講師 NPO法人富山ダルクリカバリークルーズメンバー 理事長 林 敦也 責任者 高見 陽介	

[ギャンブル等依存症]

月日	場 所	内 容	参加者
8月1日 10月3日 12月19日	富山県 心の健康センター	(講義+質疑+座談会) ①「ギャンブル依存の理解と支援」 講師 富山県心の健康センター 所長 麻生 光男 ②体験談「依存症からの回復」 講師 セルフリカバリー まっぺさん 「家族からのメッセージ」 講師 石川たんぽぽの会 ともさん、たいようさん ③「ギャンブル依存症と家族」 講師 一般社団法人 セルフリカバリー 社会福祉士 豊島 浩幸	実 9名 延 14名

[薬物依存症] [ギャンブル等依存症]

月日	場 所	内 容	参加者
8月8日 2月20日	富山県 心の健康センター	①「ポジティブ心理学を精神保健福祉の現場に活かすヒント」 講師 金沢工業大学大学院教授 塩谷 亨 (※精神科リハビリテーション研修会と合同) ②「依存症の相談の受け方について」 講師 岡部診療所 精神保健福祉士 西念 奈津江	45名

(4) ひきこもり対策

① ひきこもり研修会・子どもの心の健康セミナー

近年、ひきこもりの長期化・複雑化が指摘され社会問題となっている中、ひきこもり当事者の心理・アセスメント・対応方法等について、支援者には専門的知識の習得が求められている。

そこで、今回はひきこもり対応の基本的な考え方やアセスメント等について学ぶことを目的として開催した。

月日	場 所	内 容	参加者
7月30日	富山 県民共生センター	講演 「たてこもり・ひきこもり」のアセスメントと介入法 講師 中村心理療法研究室 室長 中村 伸一氏	151名 行政50、教育関係63、 医療機関12、その他26

※子どもの心の健康セミナーと合同開催

② ひきこもりサポーター養成研修会

地域住民がひきこもりの正しい理解や対応の仕方を学び、地域により多くの理解者（サポーター）を増やし、地域に潜在するひきこもりを早期に発見し、適切な支援機関につなぐことで、ひきこもりからの脱却の短期化を目指すことを目的としている。今年度は、開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

月日	場 所	内 容	参加者
中止	富山県 心の健康センター	講義「ひきこもりサポーターの役割について」 講義「ひきこもりの理解」 講義「ひきこもりのご本人やご家族への関わり方」 活動報告「昨年度のひきこもりサポーター登録者の活動報告」 体験発表・ディスカッション 講義・演習 「ひきこもりサポーターの心構え 及び サポート活動における留意点」	

(5) リハビリテーション

精神科リハビリテーション研修会

精神科リハビリテーション、地域精神保健福祉活動及び障害福祉サービスに従事する職員の専門的な知識や技術の習得向上を図り、精神障害者の社会復帰促進に資する。

月日	場 所	内 容	参加者
8月8日	富山 心の健康センター	講義 「ポジティブ心理学を精神保健福祉の現場に活かすヒント」 講師 金沢工業大学大学院教授 塩谷 亨	32名 行政15、医療機関7、障害者支援事業所10

(6) 児童思春期

児童思春期精神保健専門研修会

児童・思春期精神保健業務の今日的課題のひとつとして、インターネットやゲームに依存している青少年への支援の在り方が挙げられている。依存が深刻化した場合、不眠等の健康被害や、社会生活の問題に発展する例がしばしばみられている。

本研修は、ネット・ゲーム依存に陥った青少年を支援するための方策や、対処方法について学び、日々の実践に役立てることを目的に開催した。

月日	場 所	内 容	参加者
10月28日	富山県市町村会館	講演「青少年のネット・ゲーム依存とその対処」 講師 独立行政法人国立医療機構 久里浜医療センター 精神科医長 中山 秀紀	132名 行政35、医療機関19、教育関係72、社会福祉施設3、その他3

3 普及啓発

精神障害者福祉や心の健康づくりについて、一般県民や関係者の一層の理解と認識を深め、地域社会における精神保健福祉活動の推進を図るために、広報啓発資料等の作成やビデオ・図書等の貸出、マスメディアの活用、また各種団体や関係機関等の実施する研修会開催への協力、援助等を行なっている。

(1) 広報紙「こころの健康だより」の発行・配布

心の健康づくり及び精神保健福祉について啓発・普及を行なうため、年1回発行している。発行部数は8,000部。県の機関や市町村窓口のほか、県内総合病院・精神科病院、各種ホール、公民館などにも配置している。また、ホームページにも掲載し、広く県民に届くよう努めている。

表Ⅱ－3－1 「こころの健康だより第42号（10月発行）」の内容

掲 載 内 容		
42号	作品紹介	空のネコ センター利用の方
	寄稿	ひきこもり 家族からのメッセージ —困っている家族同士で交流しましょう— ひきこもり家族自助会 とやま大地の会代表 山岡 和夫
	心の健康センター 事業紹介	ひきこもり地域支援センター
	特集 「ギャンブルにはま ったら病気なの？」	ギャンブルにはまったら病気なの？ アイ・クリニック院長 吉本 博昭 ・ギャンブル障害（ギャンブル依存症、病的賭博）とは ・どうしたらいいの 心の健康センター・依存症相談支援センターでの取り組み 相談機関の紹介
	心の健康センター 主催研修会報告	平成30年度自殺対策専門研修会（平成30年8月）要旨 講義「子どものメンタルヘルス」～トラウマケアの重要性～ 兵庫県こころのケアセンター 副センター長 亀岡 智美
	インフォメーション	CRAFT（クラフト）ひきこもりの家族支援への応用

(2) ホームページの運営

ホームページを平成14年6月20日に開設した。適宜更新を行っている。

(3) ビデオテープ・図書等の貸出

貸出状況

	実	延
ビデオ	3	10
図書	53	85
パネル	1	10

(4) 見学研修

見学者数 44 名 (2 件)
内 容 学生教育 (14 名)、支援者研修 (30 名)
見学者に対して、精神保健福祉の現状や心の健康等についての講義を実施した。

(5) 講演会への講師派遣

関係機関や団体からの依頼により行った。実施回数 20 回、延参加人員 678 人である。
内容は、1 技術援助・技術指導 表Ⅱ－１－２ (P7) のとおりである。

(6) マスメディアの活用・協力

マスメディアの取材に協力し、事業・研修の広報を行っている。

表Ⅱ－３－２ マスメディアの活用・協力状況

	内 容	媒 体
6 月 5 日	ひきこもり地域支援センターについて	北日本放送
6 月 17 日	ひきこもり地域支援センターについて	北陸中日新聞
6 月 19 日	ひきこもり地域支援センターについて	北日本新聞
10 月 11 日	ゲーム・ネットの問題に関する相談状況について	北陸中日新聞
11 月 6 日	自殺の傾向について	北日本新聞
12 月 19 日	「こんにちは富山県」心の健康センター紹介	北日本放送

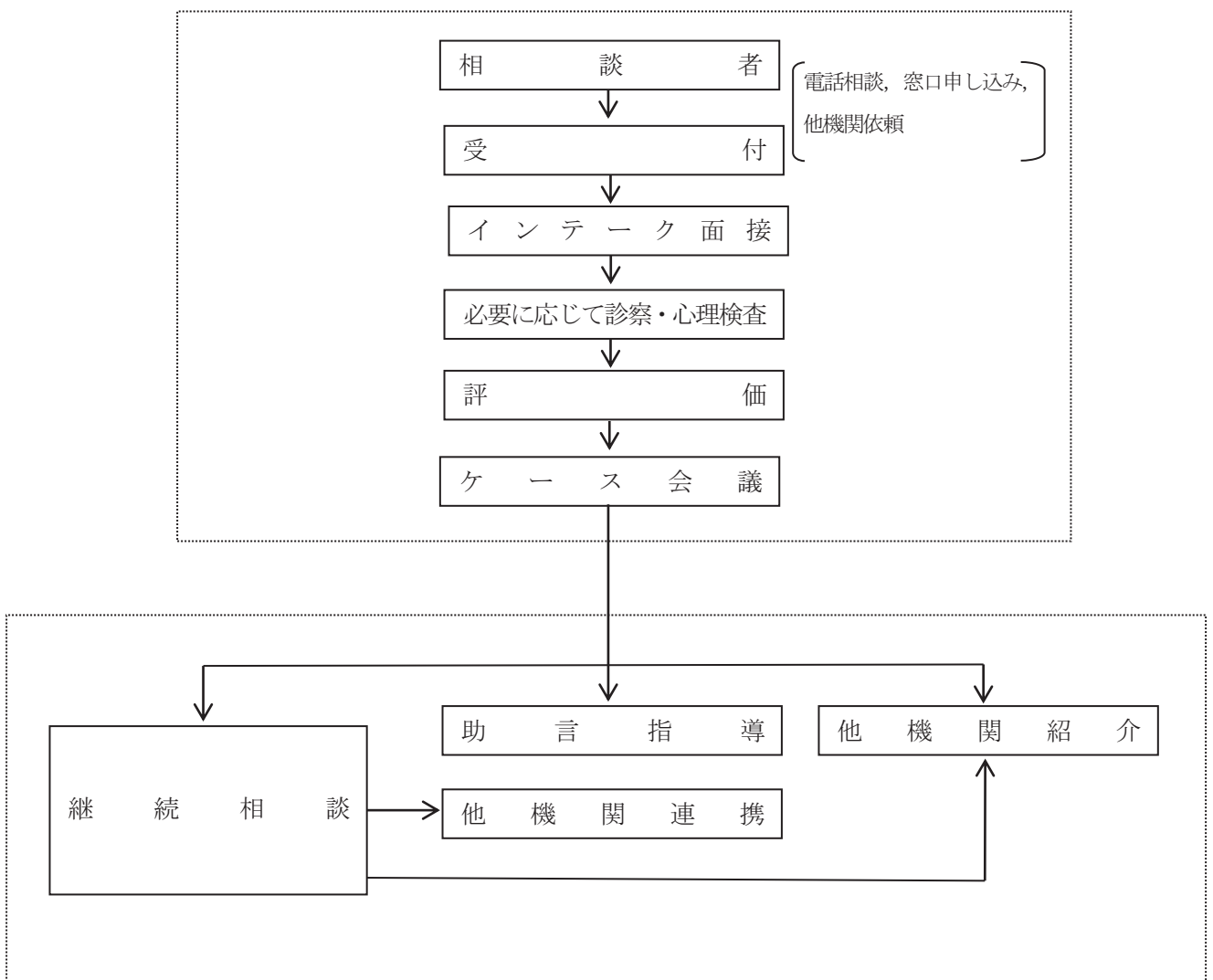
4 精神保健福祉相談・診療

心の健康相談、社会復帰相談をはじめ、自殺や自死遺族に関する相談、思春期、アルコール関連問題、薬物・ギャンブル等の依存など精神保健福祉全般についての相談を行っている。

(1) 来所相談

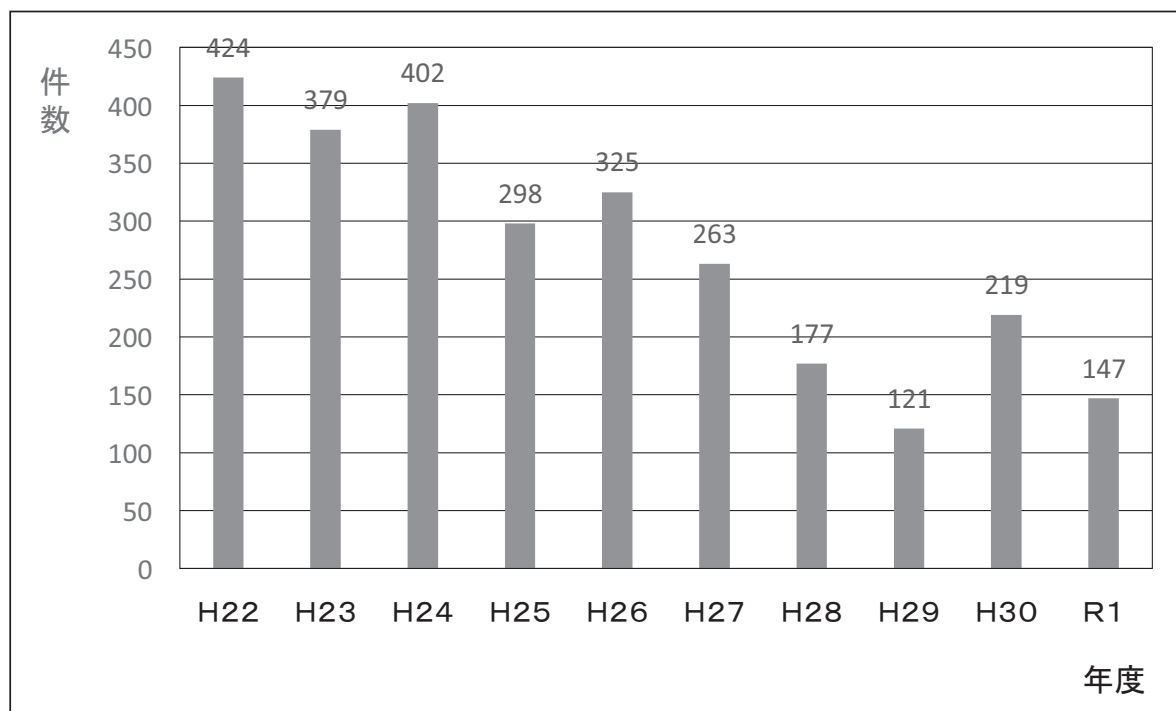
来所相談の基本的な流れは、図Ⅱ-4-1のとおりである。より適切な処遇を行うために、すべてのケースについてケース会議で検討することとしている。

図Ⅱ-4-1 来所相談の流れ



① 相談受付状況

図Ⅱ－４－２ 相談実件数の年次推移



表Ⅱ－４－１ 年齢別相談内容別 相談件数

R1 年度

		年齢区分											計	構成比
		0～6	7～12	13～15	16～18	19～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	不明		
相談内容	老人精神保健	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	4	2.7%
	社会復帰	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	4	2.7%
	アルコール	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5	3.4%
	薬物	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	7	4.8%
	ギャンブル	0	0	0	0	9	5	8	1	0	0	0	23	15.6%
	思春期	0	0	8	10	0	0	0	0	0	0	0	18	12.2%
	心の健康づくり	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.7%
	うつ・うつ状態	0	0	0	0	4	1	1	0	0	0	0	6	4.1%
	摂食障害	0	0	0	0	4	3	4	2	2	2	0	17	11.6%
	てんかん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
その他(他アディクション含)		1	2	1	3	21	14	11	6	1	1	1	62	42.2%
計		1	2	9	13	41	30	27	14	6	3	1	147	100.0%

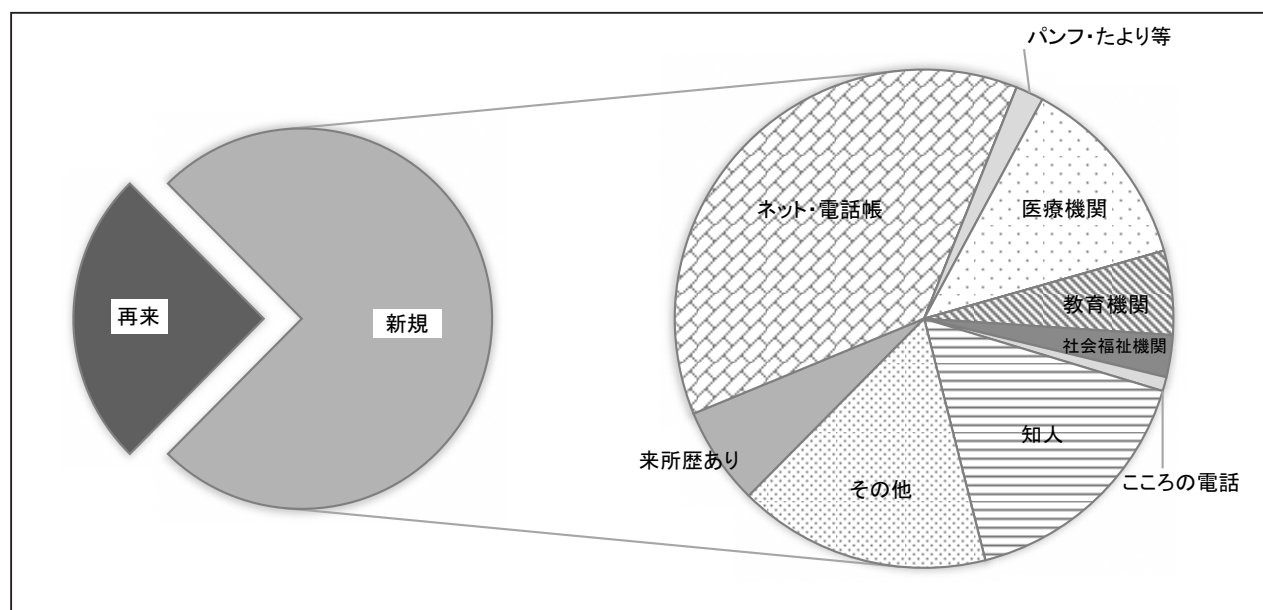
② 来所経路別状況

来所相談のうち、新規相談が 74.8%を占める。
その経過は、ネット・電話帳が 41 件（27.9%）と最も多く、次いで、知人、医療機関の順となっている。

なお、新規のうち、「来所歴あり」とは、過去の来所から 1 年以上経過後、来所した者である。

	計	構成比	
再来(継続)	37	25.2%	
来所歴あり	7	6.4%	
ネット・電話帳	41	37.3%	
新聞・ラジオ等	0	0.0%	
パンフ・たより等	2	1.8%	
医療機関	14	12.7%	
保健所	0	0.0%	
新規	0	0.0%	
市町村	0	0.0%	
教育機関	6	5.5%	
社会福祉機関	3	2.7%	
司法関係	0	0.0%	
こころの電話	1	0.9%	
家族、知人等	18	16.4%	
ひきこもり地域支援C	0	0.0%	
その他	18	16.4%	
小計	110	100.0%	74.8%
計	147	100.0%	

図Ⅱ－4－3 来所経路別状況



(2) 思春期・青年期グループ相談事業

① 家族グループ相談

思春期グループ 対象者なし

青年期グループ

回数	参加家族	実人員	延人員	内容
12	12	16	26	親同士の近況報告や情報交換・学習会

② 本人グループ相談

思春期グループ 対象者なし

青年期グループ

回数	実人員	延人員	内容
48	9	253	創作活動、レクリエーション、スポーツ、散歩等

(3) 電話相談

① こころの電話

「こころの電話」は、自殺対策事業の一環として心の相談を実施している。

(ア) 実施内容

受付時間 月曜日～金曜日（年末年始、祝日を除く。） 9:30～12:00 13:00～17:00
電話番号 076-428-0606

(イ) 相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	30年度
男性	52	45	69	51	47	40	50	36	32	41	31	45	539	1,162
女性	104	125	127	107	96	106	127	138	134	126	132	176	1,498	1,309
不明	9	13	72	15	19	10	9	7	25	7	13	46	245	2
計	165	183	268	173	162	156	186	181	191	174	176	267	2,282	2,473

(ウ) 続柄

続 柄	件 数	構成比
本 人	2,201	96.6%
家 族	71	3.1%
親 戚	1	0.0%
地 域	0	—
友 人	1	0.0%
職 場	4	0.2%
関係機関	1	0.0%
その他	3	0.1%
計	2,282	100.0%

(エ) 年代別

対 象 者		件数	構成比
幼 児		1	0.0%
小 学 生		5	0.2%
中 学 生		5	0.2%
高 校 生		14	0.6%
一 般	19～20代	73	3.2%
	30代	416	18.3%
	40代	269	11.8%
	50代	326	14.3%
	不明	203	8.9%
60 歳 以上		356	15.6%
不 明		614	26.9%
計		2,282	100.0%

(オ) 結果

	件数	構成比
助言	1,350	59.2%
来所を勧める	18	0.8%
他機関紹介	72	3.2%
その他	842	36.8%
計	2,282	100.0%

(カ) 相談内容

相 談 内 容	件数	構成比	相 談 内 容	件数	構成比
病気・障害に関すること	209	9.2%	不 登 校	9	0.4%
精神障害者とのかかわり	14	0.6%	学校不適応	1	0.0%
認 知 症	2	0.1%	出産・育児に関すること	5	0.2%
精神障害者の社会復帰に関すること	30	1.3%	子どもの発達・発育上の問題	3	0.1%
対人関係上の問題	599	26.2%	社会資源に関すること	29	1.3%
社会的不適応	29	1.3%	人権に関すること	5	0.2%
食行動の異常	1	0.0%	話を聞いてほしい	779	34.1%
虐 待	7	0.3%	無言・いたづら	271	11.9%
性に関すること	8	0.4%	自殺に関すること	60	2.6%
身体症状に関すること	47	2.1%	そ の 他	86	3.8%
性格・生き方等に関すること	88	3.9%	計	2,282	100.0%

② 所内電話

(ア) 相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	30 年度
男性	52	66	69	53	63	79	137	147	58	91	94	53	962	854
女性	68	79	94	92	79	93	101	110	117	110	104	98	1,145	1,013
不明	5	0	0	0	1	4	4	0	0	2	2	0	18	23
計	125	145	163	145	143	176	242	257	175	203	200	151	2125	1,890

(イ) 続柄

続 柄	件 数	比 率
本 人	1,756	82.6%
家 族	311	14.6%
親 戚	1	0.1%
地 域	0	—
友 人	10	0.5%
職 場	13	0.6%
関係機関	25	1.2%
その他	9	0.4%
計	2,125	100.0%

(ウ) 年代別

対象者		件数	構成比
幼児		1	0.0%
小学生		12	0.6%
中学氏		16	0.8%
高校生		39	1.8%
一 般	19～20 代	75	3.5%
	30 代	76	3.6%
	40 代	105	5.0%
	50 代	58	2.7%
	不明	1,043	49.1%
60 歳以上		234	11.0%
不明		466	21.9%
計		2,125	100.0%

(エ) 結果

	件数	%
助言・傾聴	1,854	87.3%
来所のすすめ	113	5.3%
情報提供	125	5.9%
他機関紹介	15	0.7%
その他	18	0.8%
計	2,125	100.0%

(オ) 相談内容（複数回答）

相 談 内 容	件 数	相 談 内 容	件 数
病気・障害に関すること	225	不登校・不適應	27
精神障害とのかかわり	42	ひきこもり	12
高齢者の問題	19	出産・育児に関すること	9
精神障害者の社会復帰に関すること	21	子どもの発達・発育上の問題	16
対人関係上の問題	236	社会資源に関すること	52
仕事・職場の悩み	91	人権に関すること	0
食行動の異常	2	話を聞いてほしい	1,305
虐 待	3	日常の心配	106
性に関すること	5	自殺に関すること	25
身体症状に関すること	29	その他	285
性格・生き方等に関すること	21	計	2,531

(4) 診療

平成9年度に診療所を開設し、平成28年度までは精神科デイ・ケア、ショート・ケアの実施のため、定期的に診療を行っていた。現在は、新規の診療は行わず、平成28年度以前からの継続者のみを対象に実施している。

年度別診療実績

	28年度	29年度	30年度	元年度
診療実人員（人）	86	27	15	8
診療延件数（件）	1,364	208	98	72

(5) こころのリスク相談事業

統合失調症は、思春期・青年期に発症することが多い代表的な精神疾患であるが、早期発見によって経過が改善するとともに再発率も低下することが判明してきている。さらに、病気の前兆が現れる「こころのリスク期」に早期対応することによって、統合失調症の発病自体も抑えることが可能であるとされている。

このことから、県民の精神的健康の保持増進に寄与することを目的に、富山県厚生部と富山大学医学部が共同で、「こころのリスク相談事業」を実施している。

開設日	第2・4月曜日の午後 予約制
対 象	思春期・青年期の若者や家族
内 容	富山大学附属病院の医師等による相談・診察等 「心の危機状態（At Risk Mental State：ARMS）」と判定された者は、富山大学附属病院で詳しい検査を実施する
実施者	4名（男性2名、女性2名）
結 果	「心の危機状態」と判定された者 0名

5 組織育成

地域精神保健福祉の向上を図るため、関係する組織や団体への援助・協力を行っている。

(1) 公益社団法人 富山県精神保健福祉協会

公益社団法人富山県精神保健福祉協会は、富山県精神衛生協会として、昭和 35 年に設立された。改称を経て平成 7 年に社団法人となり平成 25 年 4 月に公益社団法人へ移行し、県内の精神保健関連団体で最も長い歴史と最も大きな広がりを持つ。その研修や広報普及などの活動全般の企画、実施に協力し、メンタルヘルス講座、アルコール関連問題研修会等は共催事業として行っている。

(2) 社会福祉法人 富山県精神保健福祉協会

社会福祉法人富山県精神保健福祉協会は、平成 8 年に設立された。精神障害者社会復帰施設「ゆりの木の里」の設置運営主体であり、これはモデル施設として、地域生活支援センター、通所授産施設、生活訓練施設、福祉工場、地域交流施設をもって活動してきた。平成 19 年 4 月に障害福祉サービス事業に移行した。両団体の役員会等にも参画し、積極的に支援している。

(3) 特定非営利活動法人 富山県精神保健福祉家族連合会

昭和 42 年頃より病院単位に家族会が設立され、昭和 45 年 11 月に 5 つの病院家族会と 1 つの地域家族会をもって富山県精神障害者家族連合会として発足した。その後、保健所を中心に地域家族会がつくられ、現在は 12 地域家族会と 7 病院家族会で連合会を組織し、会員は 657 人となっている。

定例会での事業検討や国庫補助対象作業所選考委員会、研修会等への支援を行った。また、関連の情報提供を行っている。なお、平成 25 年 4 月に特定非営利活動法人を設立した。

(4) 富山県精神障害者支援事業所等連絡会

昭和 63 年 8 月、6 つの作業所をもって富山県精神障害者共同作業所連絡会として発足した。月 1 回の定例会や指導員の研修会等を行っている。改称を経て、現在、県内の 13 事業所すべてが参加している。

(5) 特定非営利活動法人 富山県断酒連合会

昭和 44 年に県下で初めての病院断酒会が設立されたが、その後に発足した病院、地域断酒会が加わり、昭和 61 年に連合会が設立された。例会、総会のほか、例年一泊研修会を実施してきたが、平成 11 年の第 12 回から、これを北陸断酒学校として開催している。また、平成 13 年には特定非営利活動法人格を取得し、さらに積極的な活動が行われている。

(6) 富山県精神科医会・富山県精神科病院協会

昭和 29 年に発足した、県内の精神科医、精神科医療機関からなる団体である。定例的な勉強会を開くほか、平成 9 年から「こころの日」(6 月第 2 木曜日)を設置し、広報活動も行っている。役員会等に参画し、「こころの日」には相談会や啓発資料提供で協力している。

6 精神医療審査会の審査に関する事務

精神障害者の人権に配慮しつつその適正な医療及び保護を確保する観点から、精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律第12条に基づき、富山県精神医療審査会が設置されており、平成11年の法改正により、平成14年度からその事務を心の健康センターが行っている。

審査会では、①精神科病院の管理者から提出される医療保護入院届及び措置入院者並びに医療保護入院者の定期病状報告書により当該入院中の者についてその入院の可否を審査するとともに、②精神科病院に入院中の者又はその保護者等から退院請求又は処遇改善請求があったときに入院の可否や処遇の適不適について審査を行っている。

精神医療審査会審査件数の推移（H22～R1）

定期の報告等

		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
措置入院者の定期病状報告書	審査件数	41	50	38	34	26	33	26	33	35	45
	結果										
	現在の入院形態が適当	41	50	38	34	26	33	26	33	35	45
	他の入院形態への移行が適当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療保護入院者の定期病状報告書	入院継続不要	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	審査件数	1,442	1,433	1,423	1,366	1,327	1,321	1,338	1,313	1,353	1,367
	結果										
	現在の入院形態が適当	1,442	1,433	1,423	1,366	1,327	1,321	1,338	1,313	1,353	1,367
医療保護入院者の入院届	他の入院形態への移行が適当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院継続不要	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	審査件数	1,587	1,723	1,755	1,834	2,074	1,988	2,059	2,037	1,916	1,782
	結果										
計	現在の入院形態が適当	1,587	1,723	1,755	1,834	2,074	1,988	2,059	2,037	1,916	1,782
	他の入院形態への移行が適当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院継続不要	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	審査件数	3,070	3,206	3,216	3,234	3,427	3,342	3,423	3,383	3,304	3,194
	結果										
	現在の入院形態が適当	3,070	3,206	3,216	3,234	3,427	3,342	3,423	3,383	3,304	3,194
	他の入院形態への移行が適当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院継続不要	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

退院等の請求

		22	23	24	25	26	27	28	29	30	31・R1
退院の請求	審査件数	25	17	14	10	15	14	14	4	7	18
	結果										
	現在の入院形態が適当	25	17	14	10	15	14	14	4	7	17
	他の入院形態への移行が適当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院継続不要	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処遇改善の請求	その他(取下げ、要件消失等)	4	5	7	7	6	5	10	3		取下10 審査中1
	審査件数	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
	結果										
	処遇は適当	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
	処遇は適当ではない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他(取下げ、要件消失等)	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1

7 自立支援医療費(精神通院医療)の支給認定及び精神障害者保健福祉手帳の交付決定等に関する事務

(1) 自立支援医療費(精神通院医療)支給認定等の事務について

ア 対象者

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第5条に規定する統合失調症、精神作用物質による急性中毒症、その他の精神疾患を有する者で、通院による精神医療を継続的に要する病状にあるものに対し、その通院医療に係る自立支援医療費の支給を行うものである。

イ 自己負担額

指定医療機関での精神通院医療に要する費用の1割が自己負担になる。ただし、世帯の所得水準等に応じて自己負担上限月額が設定される。また、継続的に相当額の医療費負担が発生する場合には負担額が軽減される。

医療に要する費用から自己負担額と医療保険制度による給付とを差し引いた分を、自立支援医療費として支給（現物給付）する（支給事務の担当は健康課）。

ウ 有効期間

1年間

エ 支給認定

精神通院医療の要否等について、申請書に添付された診断書（指定医療機関において精神障害の診断又は治療に従事する医師が作成したもの）をもとに、判定が行なわれる。

オ 所得区分

申請書に添付された所得に関する資料をもとに世帯の所得区分を認定し、自己負担上限月額を設ける。

カ 受給者証の交付

支給認定が行なわれた申請者に指定医療機関、自己負担上限月額、有効期間等を記載した受給者証を交付する。

※自立支援医療（精神通院医療）は、平成18年4月の障害者自立支援法施行に伴い、通院公費医療費負担制度が移行したものである。

支給認定件数及び有資格者数

年度	新規	再開	再認定 (継続等)	計	変更	年度末 有資格者数	備考
14	912	185	2,544	3,641	640	7,210	交付事務移管※1
28	991	480	9,358	10,829	1,746	10,752	
29	1,991	470	9,874	10,366	2,147	11,120	
30	1,158	539	10,381	12,078	2,171	11,495	
31	1,242	534	10,834	12,610	2,309	12,103	

※1 交付事務等がセンターに移管された年度

(2) 精神障害者保健福祉手帳交付決定等の事務について

ア 対象者

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第5条に規定する精神障害者（知的障害者を除く）であって、下記の表の精神障害の状態に該当する者。

障害等級	精 神 障 害 の 状 態
1 級	精神障害であって、日常生活の用を弁ずることを不能ならしめる程度のもの
2 級	精神障害であって、日常生活が著しい制限を受けるか、又は日常生活に著しい制限を加えることを必要とする程度のもの
3 級	精神障害であって、日常生活若しくは社会生活が制限を受けるか、又は日常生活若しくは社会生活に制限を加えることを必要とする程度のもの

イ 有効期間

2年間

ウ 審査及び判定

(ア) 医師の診断書

診断書（精神保健指定医等精神障害の診断又は治療に従事する医師によるもの）が記載された申請は、この診断書をもとに、交付の可否及び等級の判定が行なわれる。

(イ) 年金証書等

年金証書（精神障害を支給事由とする障害年金及び特別障害給付金等を、現に受けていることを証する書類）の写しが添付された申請は、照会により確認し、年金1級であれば手帳1級、年金2級であれば手帳2級、年金3級であれば手帳3級とする。

エ 手帳の交付

交付決定が行なわれた申請者に、障害等級、交付年月日、有効期限等を記載した手帳を交付する。

オ 手帳に基づく各種援助施策

- ・ 税制上の優遇措置
- ・ 生活保護の障害者加算
- ・ 公共施設の利用料割引
- ・ 公共交通機関の運賃割引 等

交付決定件数及び有資格者数

年度	交付決定件数※1			年度末有資格者数				備考
	診断書	年金等	計※2	1 級	2 級	3 級	計	
14	415	530	945 (282)	335	999	317	1,651	事務移管※3
28	1,604	1,458	3,062 (546)	473	3,995	1,440	5,908	
29	1,818	1,512	3,330 (539)	483	4,172	1,631	6,286	
30	1,957	1,722	3,679 (755)	506	4,472	1,785	6,763	
31	2,217	1,735	3,952 (773)	521	4,780	2,010	7,311	

※1 県外からの転入交付を含める

※2 括弧内は新規交付決定件数（内数）

※3 交付事務等がセンターに移管された年度

8 自殺予防対策

平成 18 年に自殺対策基本法が施行され、翌年には自殺総合対策大綱が策定された。本県では自殺死亡率が全国平均を上回っている実態を受け、平成 19 年度より自殺予防対策に取り組んでいる。当センターが直接実施している自殺予防対策事業は次のとおりである。

(1) 普及啓発活動

自殺予防パンフレット、リーフレット、啓発グッズの配布

自殺予防週間にあわせ、9 月 10 日に JR 富山駅前で街頭配布を実施した。

グリーフケア相談（自死遺族相談）のパンフレットの配布

(2) 技術指導・技術援助、企画立案など

①事務局として参画

富山県自殺対策推進協議会

②技術指導・技術援助

地域における自殺対策関連施策などへの提案、助言、講師派遣を行っている。

(3) 研修会

自殺対策関係者を対象に実施した。実施回数 1 回、参加者 142 名。

内容は、Ⅱ-2-(2)自殺予防対策（P9）「自殺予防対策専門研修会」のとおりである。

(4) グリーフケア相談

家族、親戚、身近な人の自死遺族を対象に、来所、電話によるグリーフケア相談を実施している。

ア 日時・担当者（予約制）

第 2 水曜日 14：00～16：00 臨床心理士

第 3 水曜日 13：00～14：00 16：00～17：00 精神科医

イ 相談件数

実人数 7 人、延人数 49 人

(5) 職域対策：心の健康に関する出前講座

ア 内 容

職域における自殺予防の推進を図るため、県内中小企業等の勤労者を対象にうつ病等の心の健康に関する出前講座を実施している。

イ 実施状況

回	月日	時間	事業所	内容	参加人数
1	7月1日	13:30～14:30	菅原建設株式会社	職場のメンタルヘルス ～安全に働くために～	26
2	7月24日	14:00～15:00	富士ゼロックスマニュファクチュアリング株式会社 富山営業所	ストレスと上手に付き合うために ～コーピングとソーシャルサポート～	40
3	8月2日	10:00～11:00	富山市医師会看護専門学校	働きやすい職場にするための上手な声のかけ方・話の聴き方	19
4	9月11日	16:00～17:00	株式会社廣貴堂	メンタル不調にならないためには不調になった場合の職場での対応について	33
5	10月3日	14:00～15:00	小矢部市	ストレスチェックの実施結果についての助言等	1
6	10月23日	11:00～12:00	富山医療福祉専門学校	ストレスコーピングについて	18
7	11月13日	9:00～9:40	株式会社ヨシケイ富山 黒部営業所	ストレスと上手に付き合うためにソーシャルサポートとコミュニケーション	16
8	11月20日	9:00～9:40	株式会社ヨシケイ富山 立山営業所	ストレスと上手に付き合うためにソーシャルサポートとコミュニケーション	25
9	11月27日	9:00～9:40	株式会社ヨシケイ富山 富山営業所	ストレスと上手に付き合うためにソーシャルサポートとコミュニケーション	29
10	1月22日	14:00～15:00	富士ゼロックスマニュファクチュアリング株式会社 富山営業所	ストレスと上手に付きあおう 自分とチームのリーダー職	29
11	2月17日	16:10～17:10	富山市医師会看護専門学校	人とかかわること	66
12	3月18日	13:00～14:00	富山市医師会看護専門学校	他者への思いやりについて	22
計			実：7事業所		324

9 依存症対策

ストレス社会の中でアルコール・薬物をはじめとする依存症、ギャンブル、ネットや買い物等、いわゆるアディクション（嗜癖）に関する問題が深刻化している。

以上のことから当センターでは、依存症に関する正しい知識の理解や普及を図り、適切な対応、支援を行うことを目的に事業を実施している。

（１）アルコール依存症対策

①相談状況：来所相談 5 件、電話相談 35 件

②研修会：アルコール関連問題研修会を実施。参加者 68 名。

＊Ⅱ-2-(3) 依存症対策 (P9～10) を参照

③ アルコール依存症者支援関係機関連絡会

事業を中心とした情報共有や意見交換を行うことで、お互いの関係性を深めると同時にアルコール依存症者やその家族、並びに支援者等に対し、アルコール依存に関する理解を深め、適切な対応、支援が行えることを目的に今年度より開催した。

【参加機関】

富山市立富山まちなか病院、アイ・クリニック、谷野呉山病院、富山産業保健総合支援センター、NPO 法人富山ダルクリカバリークルーズ、富山県断酒連合会、各厚生センター、富山市保健所、県健康課、心の健康センター

【開催日】令和 2 年 3 月 25 日

【内 容】富山県アルコール健康障害対策推進計画の概要と進捗状況

心の健康センター及び依存症相談支援センターにおける事業について
支援としての連携の一方法 SBIRTS について

④ 本人回復プログラム（SMARPP）の実施（薬物依存症と併せて実施）

本人がアルコールや薬物の使用を繰り返さないための対処法を具体的かつ効果的に取り組んでいくことを目的に平成 28 年度から実施している。

【実施状況】1 クール 10 回、年 2 クール実施 計 19 回（最終日は感染症により中止）

【参加者】実 7 名、延 59 名

（２）薬物依存症対策

①相談状況：来所相談 7 件、電話相談 5 件

②本人の回復プログラム（SMARPP）の実施（アルコール依存症と併せて実施）

本人が薬物やアルコール使用を繰り返さないための対処法を具体的かつ効果的に

取り組んでいくことを目的に平成 28 年度から実施した。

【実施状況】1 クール 10 回、年 2 クール実施 計 19 回（最終日は感染症により中止）

【参加者】実 7 名、延 59 名

③家族教室の開催

家族が薬物依存症に関する知識を習得することで病気の理解を深めると共に、同じ立場の家族同士が話し合い、分かち合う場となることを目的に実施している。

回	日 時	内 容	講 師	人数
1	令和元年 7 月 25 日 14:00～16:00	講義「薬物依存症とは」 質疑応答、座談会	アイ・クリニック 院長 吉本 博昭	6 人
2	令和元年 9 月 19 日 14:00～16:00	講義「薬物依存症と家族」 質疑応答、座談会	谷野呉山病院 精神保健福祉士 中島 健一	3 人
3	令和元年 11 月 21 日 14:00～16:00	体験談：家族からのメッセージ 「薬物依存症の息子を抱えて」 「家族会の活動の紹介」 質疑応答、座談会	新潟家族会 小西 憲 金沢家族会 グッド	2 人
4	令和 2 年 1 月 16 日 14:00～16:00	講義「依存症からの回復」 質疑応答、座談会	NPO 法人富山ダルクリカバリ ークルズメンバー 理事長 林 敦也 責任者 高見 陽介	1 人

④薬物依存症者支援関係機関連絡会

事業を中心とした情報共有や意見交換を行うことで、お互いの関係性を深めると同時に、薬物依存症者やその家族、並びに支援者等に対し、薬物依存に関する理解を深め適切な対応、支援が行えることを目的に平成 26 年度から開催している。

【参加機関】 富山保護観察所、富山刑務所、富山少年鑑別支所、富山ダルク
谷野呉山病院、アイ・クリニック、県くすり政策課、県健康課
心の健康センター

【開催日】 令和 2 年 1 月 15 日

【内 容】 富山県心の健康センター事業について
事例検討
各関係機関の取り組みについて

⑤支援者への研修

薬物依存症相談対応者研修会（家族教室を含む）を 6 回実施。延 76 名参加。

* II-2-(3) 依存症対策（P9～10）参照

⑥普及啓発

・リーフレットの配布

(3) ギャンブル依存症対策

①相談状況：来所相談 23 件、電話相談 36 件

②家族教室の開催

家族がギャンブル等依存症に関する理解を深めることを目的に実施している。

回	日 時	内 容	講 師	人数
1	令和元年 8 月 1 日 14:30～16:30	講義「ギャンブル依存の理解と支援」 質疑応答、座談会	富山県心の健康センター 所長 麻生 光男	8 人
2	令和元年 10 月 3 日 14:30～16:30	講義「依存症からの回復」 講義「家族からのメッセージ」 質疑応答、座談会	まっぺさん 石川たんぽぽの会 ともさん、たいようさん	8 人
3	令和元年 12 月 19 日 14:30～16:30	講義「ギャンブル依存症と家族」 質疑応答、座談会	一般社団法人セルフリカバリー 社会福祉士 豊島 浩幸	8 人

③支援者への研修

ギャンブル等依存症相談対応者研修会(家族教室を含む)を 5 回実施。延 59 名参加。

＊Ⅱ-2-(3) 依存症対策 (P9～10) 参照

④普及啓発

・リーフレットの配布

⑤自助グループ“ギヤマノン富山グループ”(家族グループミーティング)の支援

ギャンブルの問題に悩む家族が、それぞれの経験や悩みを分かち合い、自分を見つめ直すことによって依存からの回復を図り、併せて本人の回復にも結び付けることを目指している。

【開催日】第 1・3・5 木曜日 13:30～15:00

【会 場】心の健康センター

10 ひきこもり地域支援センター

ひきこもり本人や家族の悩みに対応する総合的な相談窓口を設けるとともに、支援困難事例について支援機関の調整等を行うなどを目的として、平成24年5月22日に、心の健康センター内に「ひきこもり地域支援センター」を開設した。専任の相談員としてソーシャルワーカーと心理職の2名を配置しており、専用電話も設置している。

(1) 電話・メール相談

1 性別

相談者	延件数
男性	395
女性	163
不明	18
計	576

2 続柄

相談者	延件数
本人	235
家族	224
親戚	4
地域	5
友人	6
職場	1
関係機関	89
その他	12
計	576

3 年齢

相談対象者	延件数
幼児	0
小学生	2
中学生	7
高校生	19
19～20代	131
30代	156
40代	83
50代	116
老人	0
不明	62
計	576

4 内容

内容	延件数
助言	515
来所につなぐ	46
他機関紹介	15
その他	0
計	576

(2) 来所相談

1 性別

相談者	実件数
男性	117
女性	30
計	147

2 続柄

相談者	実件数
本人のみ	26
本人・家族	25
家族のみ	96
計	147

3 年齢

相談対象者	実件数
10代	14
20代	46
30代	56
40代	20
50代以上	11
計	147

4 対応

対応	実件数
継続相談	124
助言	22
他機関紹介	1
計	147

5 延相談件数

本人	581
家族	508
計	1,089

※診察、心理検査、集団療法等を含む

(3) 思春期・青年期グループ相談事業

①家族グループ相談

青年期グループ 12 回開催、12 家族、延 26 名参加

②本人グループ相談

青年期グループ 48 回開催、実9名、延 253 名参加

＊Ⅱ-4-(2) 思春期・青年期グループ相談事業 (P16) 参照。

(4) ひきこもりサポーター養成研修会・ひきこもり研修会

①ひきこもりサポーター養成研修会 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

②ひきこもり研修会 子どもの心の健康セミナーと合同実施。151 名参加

＊Ⅱ-2-(4) ひきこもり対策 (P10) 参照

(5) 普及啓発活動

- ・「ひきこもり相談機関のご案内」(ひきこもり支援マップ) を配布
- ・見学研修 1 回 (見学者 2 名)

(6) 技術援助等

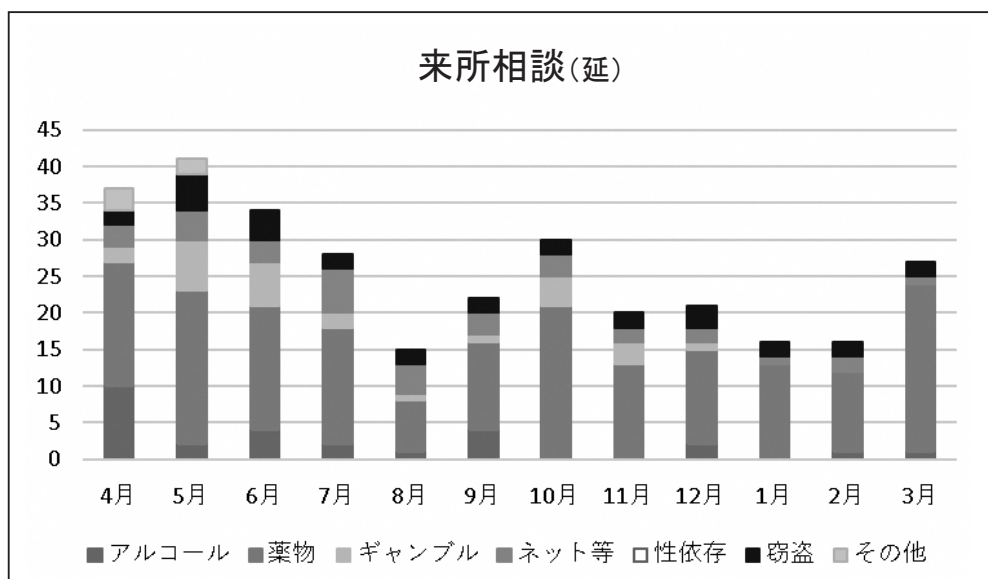
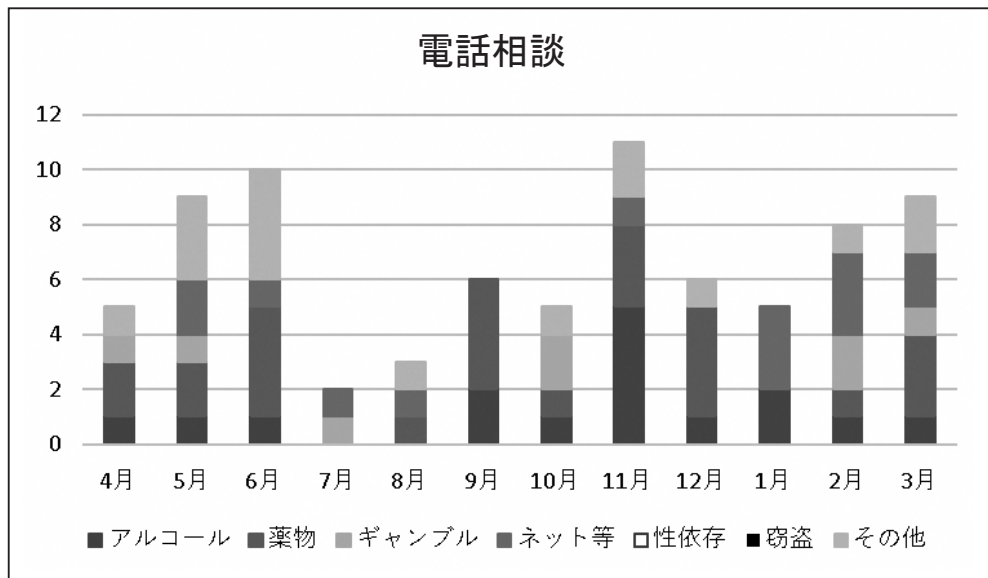
- ・「ひきこもり対策支援協議会」に事務局として参画
 - ・こころのサポーター養成研修、家族会、民生委員研修会、精神保健福祉推進協議会などにおいて講義を実施した。
- ＊Ⅱ-1-(2) その他の機関への技術指導・援助 (P6) 参照

11 依存症相談支援センター

依存症相談拠点として、平成 30 年 5 月 28 日に富山県依存症相談支援センターを開設した。このセンターでは、「気軽に相談できる」「関係機関との連携」を主たる目的としている。

(1) 相談について

専用電話回線にて、電話相談を受け、必要に応じて来所相談を受けている。



(2) 関係者連絡会について (心の健康センターと合同開催)

- ・アルコール依存症者支援関係機関連絡会
- ・薬物依存症者支援関係機関連絡会

＊Ⅱ-9 依存症対策（P26～27）を参照

12 自殺対策推進センター

関係機関と連携を図りながら地域の状況に応じた自殺対策を総合的に推進し、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指すことを目的に平成 30 年 5 月 28 日富山県自殺対策推進センターを開設した。

連絡会議

【開催日】令和元年 11 月 28 日（木）

【参加機関】民間団体、市町村、厚生センター、富山市保健所、警察・消防、健康課、心の健康センター

【内 容】情報提供「富山県における自殺対策の概要」 提供者 県健康課精神保健福祉係
事業紹介「富山市の自殺対策事業」富山市保健所保健予防課
情報交換・意見交換

心の健康センター所報

令和元年度

発 行 令和3年2月

発行者 富山県心の健康センター

〒939-8222 富山県富山市蜷川 459-1

T E L 076-428-1511

F A X 076-428-1510

U R L http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1281/index.html